

第 10 次厚木市総合計画第 1 期実施計画の振り返り（総論）

【総合計画審議会からの意見】

第 10 次厚木市総合計画第 1 期実施計画については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、創意工夫を重ねながら事業を実施し、3 年間を通して見ると、総合評価 A（順調）及び B（おおむね順調）の割合が 9 割以上となったことは高く評価する。

また、毎年度の進行管理については、市民実感度や各事業の達成率等から効果を測ることにより、市民にとって分かりやすく、職員にとっては、目標が明確となり、その時々に応じた課題の抽出を行うなど、施策の方向性を確認しながら、より柔軟に計画が進められたものとする。

一方で、実施計画の取組実績全体を経年変化とともに俯瞰してみると、行政主導で実施できる部分は比較的順調であるように見受けられるが、社会環境の変化（特に後期高齢者の大幅増加）が様々な面で影響を及ぼしていると感じる。高齢化が加速度的に進む中、「災害に強いまちの実現」「誰もが生活しやすいコンパクト・プラス・ネットワークの推進」などの施策については、地域防災力の低下や交通弱者の増加などの課題が更に深刻化することが懸念されるため、より早急な対応が必要であると考える。

第 11 次総合計画においては、あらためて社会環境の変化や市民の多様なニーズを的確に捉え、必要な事業を取捨選択するとともに、目標達成に向け、常に見直しを行いながら着実に取組を推進し、その内容と成果については、市民に分かりやすく伝え続けてもらいたい。

また、今回の振り返りに際し、本審議会から出された個別の施策等に対する意見については、その趣旨を踏まえ、効果的な施策の検討や事業の見直しに反映されたい。